



第28回上田八木・金融政策サーベイ(2019年6月)の結果について

～今回のMPMでは政策変更なしの見方(98%)。3か月先の各金利予想をみると、「無担保コールON金利」では概ね横ばいだが、2年・10年利付国債金利は「低下」と予想する先が再び増加。

2019年6月18日(火)
上田八木短資株式会社

【調査の総括】

- 全回答者(176先)の98%が今回のMPMでの政策変更なしとの見方。
- 「無担保コールON」金利予想に関しては概ね横ばい、「2年利付国債金利」「10年利付国債金利」については、総じてやや低下。ただし、回答者間のばらつきは拡大。
- 「出口開始時期」に関する質問では、「1年以上3年未満」が減少し、「3年以上」と回答する先が増加。

【調査の概要】

調査対象	弊社と取引のある銀行、証券会社、保険会社、事業法人などの市場取引関係者(186先)
調査内容	日本銀行の金融政策決定会合における結果予想と、3か月先の金利見通し
調査方法	2019年6月13日～17日の3営業日間、電話等によるヒアリングにより実施
回答率	94.6% (回答者数176先<Q1における回答者数>)

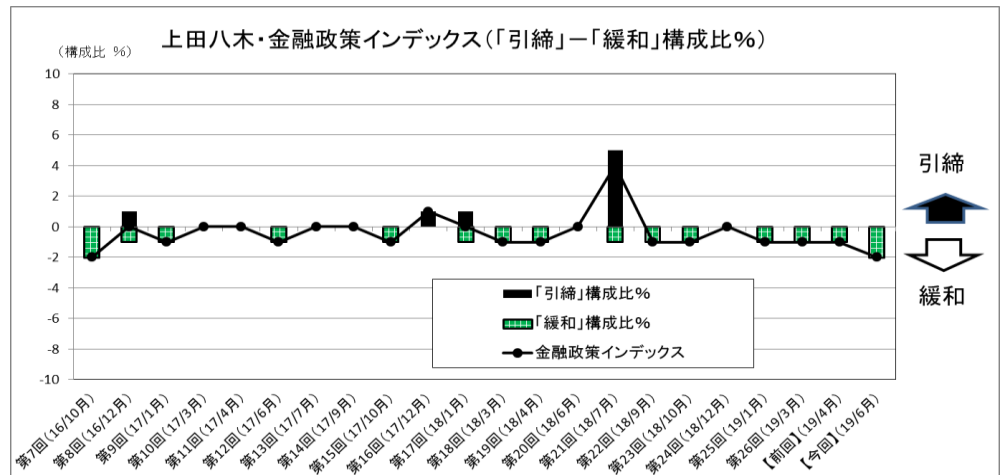
【調査結果】

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合(6月19日～6月20日)における決定について

回答者の98%が「不変」の見方。

上田八木・金融政策インデックス(「引締」-「緩和」構成比%)は、「▲2」(前回▲1)であった。

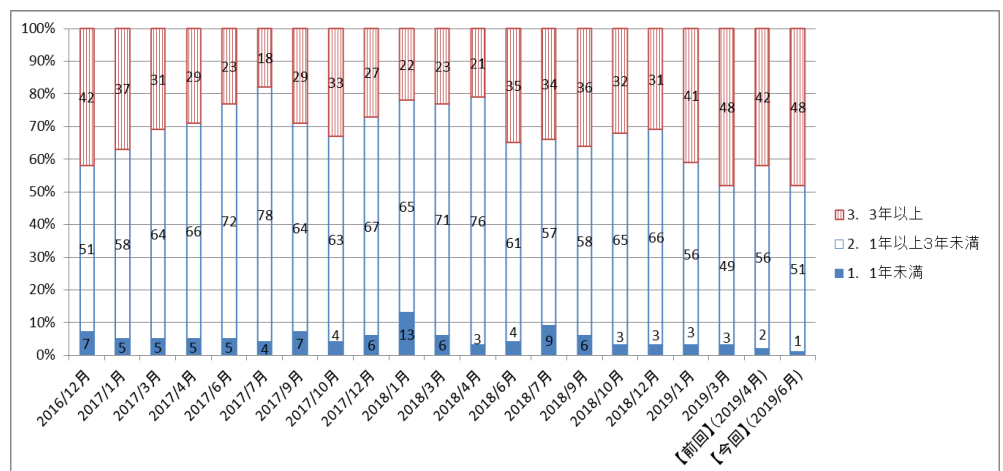
(ご参考)



【追加質問:Q5】

現状の金融緩和(オーバーシュートコミットメント含む)からの出口開始時期は?

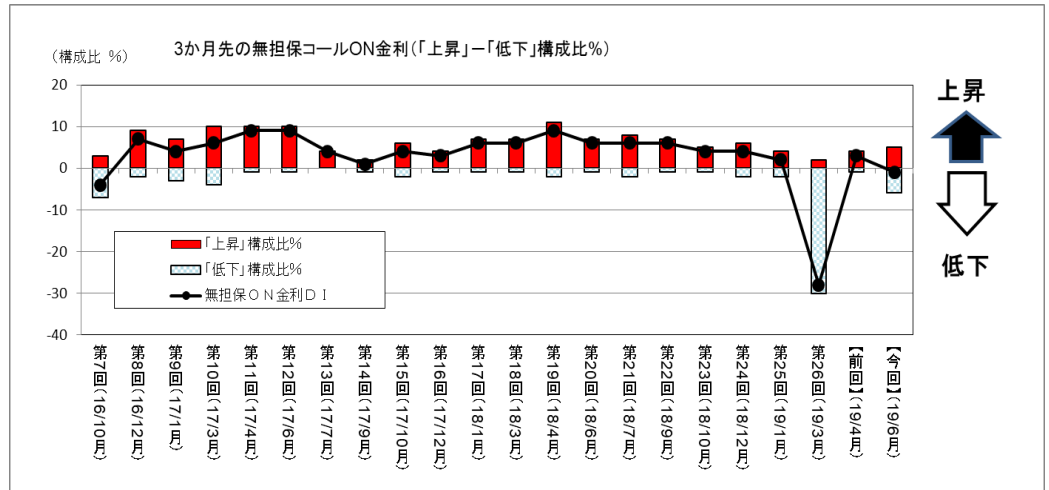
1年以上3年未満と回答する先は51%に減少(前回56%)、3年以上と回答する先が48%に増加(前回42%)



(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の89%が「不変」と予想。6%が「低下」を予想、「上昇」とみている先は5%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は+1%ポイント(前回4%→今回5%)。「低下」とみる先は+5%ポイント(前回1%→今回6%)。「不変」とみる先は▲6%ポイント(前回95%→今回89%)。



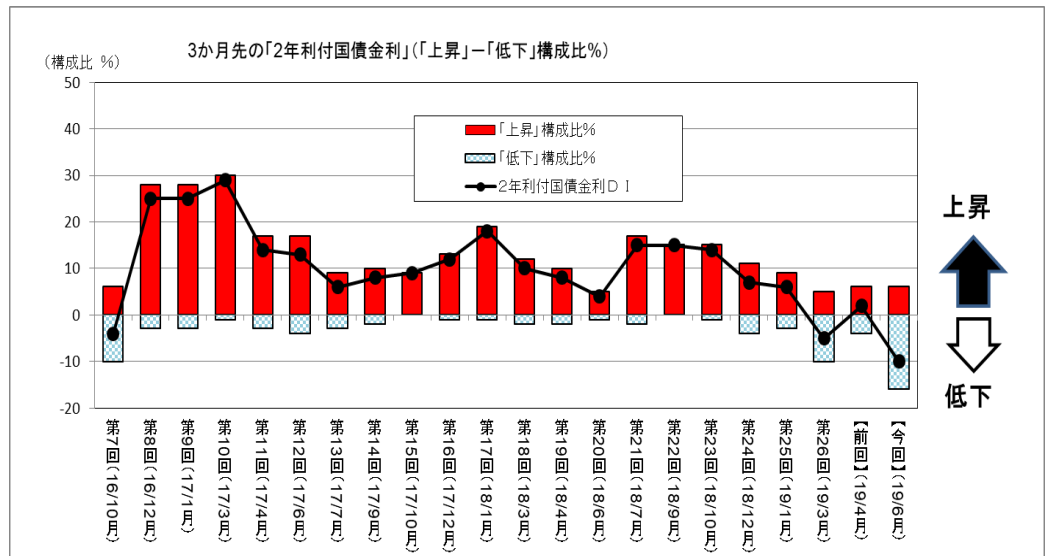
(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の78%が「不変」を予想。「低下」を予想する回答者16%。「上昇」を予想した先は6%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は±0%ポイント(前回6%→今回6%)

「低下」とみる先は+12%ポイント(前回4%→今回16%)。

「不変」とみる先は▲12%ポイント(前回90%→今回78%)。



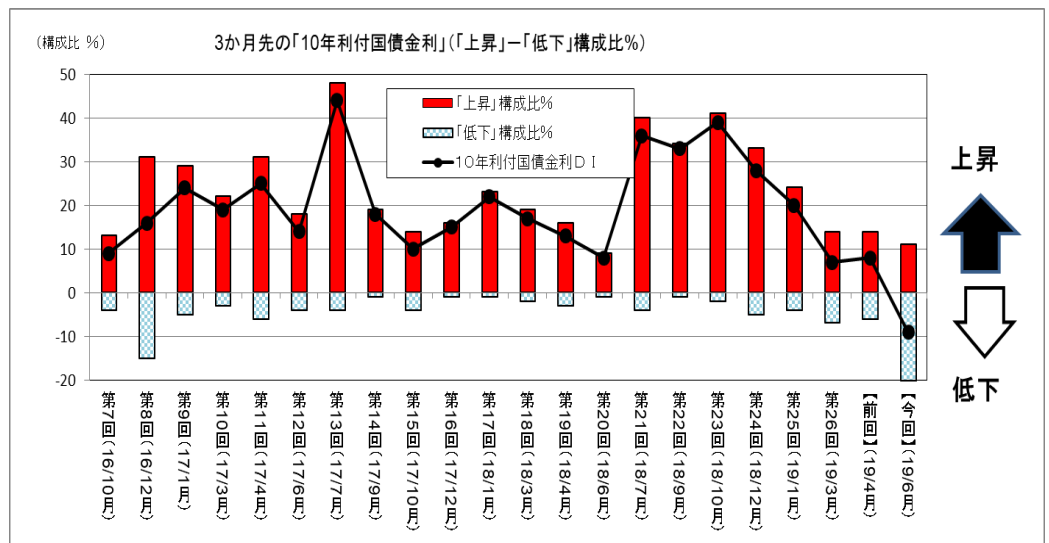
(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

回答者全体の69%が「不変」を予想。20%が「低下」、「上昇」を予想した先は11%であった。

前回との比較では、「上昇」とみる先は▲3%ポイント(前回14%→今回11%)。

「低下」とみる先は+14%ポイント(前回6%→今回20%)。

「不変」とみる先は▲11%ポイント(前回80%→今回69%)。



【本調査に関する照会先】 企画部 島本、保元 (電話 03-3272-0293)



第28回上田八木・金融政策サーベイ(2019年6月)

発表日：2019年6月18日（火）14：00 上田八木短資株式会社

調査日	2019年6月13日～17日
調査先	186先
回答率	94.6%

(Q1) 日本銀行の次回の金融政策決定会合（6月19日～6月20日）における決定内容について、どのような結果になるとみているのか。

	(今回)	(前回4月23日)	変化幅
緩和	2 (構成比%)	1	+1
不変	98	99	▲1
引締	0	0	+0
上田八木・金融政策インデックス (「引締め」-「緩和」構成比%)	▲2	▲1	▲1

(Q2) 3か月先の無担保コールON金利は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回4月23日)	変化幅
低下	6	1	+5
不変	89	95	▲6
上昇	5	4	+1
短期金利予想DI	▲1	+3	▲4

(Q3) 3か月先の「2年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回4月23日)	変化幅
低下	16	4	+12
不変	78	90	▲12
上昇	6	6	+0
2年国債金利予想DI	▲10	+2	▲12

(Q4) 3か月先の「10年利付国債金利」は、現状対比、どのようになっているとみているのか。

	(今回)	(前回4月23日)	変化幅
低下	20	6	+14
不変	69	80	▲11
上昇	11	14	▲3
10年国債金利予想DI	▲9	+8	▲17

(Q5) 現状の金融緩和（オーバーシュートコミットメントを含む）からの出口開始時期はいつ頃か。

(ここでの「出口開始時期」はオーバーシュートコミットメントを考慮したもので、例えば消費者物価が4月に目標にワンタッチした後に6か月後にその時期が来ると予想すると「出口開始」は10月という意味です。資産買入れの残高が減っても物価目標を達成していなければ「出口開始」とはみなしません)

	(今回)	(前回4月23日)	変化幅
1. 1年未満	1%	2%	▲1%
2. 1年以上3年未満	51%	56%	▲5%
3. 3年以上	48%	42%	+6%